

日本人の科学的思考力、科学的な知識、創造力の高さを
多摩地方の文化財を通じて知る

かつて「東洋一」と謳われた 自動車工場が「多摩」にあった

【企画展の見どころ】

1962年から2001年まで 968万台のクルマを製造した
「村山工場」の軌跡を写真や資料でたどります

11/7 (土)

12/11 (金)



プリンススカイラインGT・S54A-1型(1964)



御料車 ニッサンプリンスロイヤル・A70型(1966)

出典：日産自動車村山工場全景写真「工場見学用パンフレット表紙抜粋」(1986)

【会場】 〒187-0035 東京都小平市小川西町2-32-1
職業能力開発総合大学校 2号館 6階
【開催期間】 令和8年11月7日(土)～12月11日(金) 10:00-16:00
※11/7(土)を除く土日祝日は休館
【アクセス】 ●西武拝島線・西武国分寺線
「小川」駅西口から徒歩5分
●JR武蔵野線
「新小平」駅から徒歩25分
写真出典：日産自動車(株)

【問合せ先】 職業能力開発総合大学校 図書館
TEL:042-346-7229
<https://www.uitec.jeed.go.jp/>
【その他】 ※自動車の現物展示はありません。
※小学生以下の方は、保護者の方と一緒にお願いします。

第6回 テーマ企画展について

「多摩」は、高度経済成長期の時代に自動車産業の一大集積地を形成していました。

調べてみると

- ① 「村山工場」のルーツは戦後の航空機メーカーによる自動車開発にありました。
- ② 高度経済成長期(1960年代半ばから70年代の前半頃)、カラーテレビ、自家用車、クーラーが「新3種の神器(3C)」と称され、一気にモータリゼーションが進展しました。
- ③ 1962(昭和37)年、武蔵村山市に、敷地面積140万㎡の自動車工場(「プリンス自動車工業(後の日産自動車)村山工場」)が操業を開始しました。
- ④ 「スカイライン」、「グロリア」を始め、累計968万台のクルマを製造した「村山工場」は、2001(平成13)年生産を終了し、40年の歴史に幕を閉じました。



出典：日産ヘリテージコレクション

そこで...

令和8年度テーマ企画展

かつて「東洋一」と謳われた自動車工場が「多摩」にあった」

Topic 1

どんな会社で、どんな工場だったのか

Topic 2

どんなクルマを、どれくらいの台数製造したのか

Topic 3

なぜ工場は閉鎖されたのか、閉鎖後工場跡はどうなった

Point 1

会社の沿革や、
村山工場の概要を理解しよう！
経済情勢の変化の中、
会社や工場も変遷しているよ。

Point 2

クルマづくりの最初が、
「電気自動車」とは驚きでした！
「村山工場」では40年間で、
968万台のクルマが
製造されたんだよ。

Point 3

地域の産業経済史、生活文化史
の一端を理解するとともに、
「会社」は誰のためにあるのかを
考えてみよう！

【展示物の紹介】

- 1 職業大図書館所蔵資料
 - ・『PRINCE』(1973-1990)
 - ・『プリンスの思い出』(1991)
 - ・その他関連する図書、雑誌
- 2 Webサイト情報など
 - ・疾走する『たま電気自動車』(YouTube)
 - ・『たま電気自動車』1/30モデル
- 3 展示パネル

多くの皆さまに地域とその歴史を知ることの
楽しさ、興味・関心を持つことの喜びを
体感していただきたいと思います。
ぜひ、職業大図書館にお出かけください。
皆さまのお越しをお待ちしています。



職業能力開発総合大学校
The Polytechnic University of Japan